

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成27年度第2回情報教育研究委員会情報教育高大接続分科会議事記録

I. 日 時：平成27年10月22日(木) 18:00～20:00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局

III. 参加者：笈主査、植原委員、西垣委員、飯塚委員、天良^{アドバ}伊^イ、中島^{アドバ}伊^イ
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

情報を担当する高校教諭の情報担当指導力を支援するため、動画コンテンツ提供による支援の可能性について掲載ページを確認しながら、前書き（趣旨説明）部分の見直しなどアンケート実施に向けて検討を進めた。委員から以下のような意見があった。

1. 掲載ページ及びアンケートでの前書き部分について

- ・ 情報の科学の視点が不足していることからその支援をすることを含めて説明する。
- ・ 前書き部分で使う言葉は、「高校教員」、「情報科用」とすることにした。
- ・ 事業の見極めをするため、教員に意見を問いかける目的でコンテンツを作成したこと。
- ・ 教員にとって価値があるのかをアンケートを通じて伺うことにしている。

2. コンテンツについて

- ・ コンテンツの表示の順番は、学修理念、プログラム、・・・の順番ではどうかの意見もあったが、教科書に掲載されている順番にそろえることにした。
(コンテンツの掲載順は後日「色のデジタル表現」「Scratch と Arduino によるプログラミング」「データの誤り検出」「暗号化」「数値の表現」「情報概念」「Excel とプログラミング」「価値を創出させるデータ活用」として掲載した)
- ・ 教科書用の基本セットとしてパワーポイントの副教材はあるが、動きのあるものが少ない。
- ・ 教員が実際に板書している動画など、動きのあるコンテンツでないと生徒は飽きてしまう可能性があるのではないか。
- ・ 十分に納得の行く教材を作成するには多くの時間をようすると考え、実験や実践など準備に時間のかかるものへの教材対応としている。
- ・ 高校教員の勉強用にも生徒の学習用にも兼用して利用できるのではないか。
- ・ コンテンツの簡単な紹介・説明や教員用、生徒用などの表記を付けてはどうか。
- ・ 高校教員を支援することであるがその先には生徒がいることから、先生を通じて生徒に見せることで、もっと良い教材の利用や教育の必要性がでてくるのではないか。
- ・ 大学教員が積極的に教材を作成するには、表彰など業績に結び付くメリットが必要ではないか。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の分科会は別途調整することにした。
- ・ 後日、打合せ会で掲載ページ及びアンケートの前書き部分の検討を通じて以下のアンケートを作成し、情報教育委員会の委員を経由して研究会などの教員に依頼を行った。